

第3回のびのびセミナー



ごあんない（参加費無料）



2011年3月19日（土）・20日（日）
姫路獨協大学

第3回は子育て支援を軸に、子どもの健やかな身体（感覚）を育くむために必要な環境や支援者の姿勢、役割について考えるセミナーにしたいと思います。思想家ルドルフ・シュタイナーは、「子どもは感覚器官そのものです」と述べ、7歳までの子どもが周囲の世界に対してすべての感覚を開き、感覚器官を通じて世界と出会い結びつこうとする姿を説明しています。そして子どもの身体（感覚）が育つ環境として、規則正しい生活リズムと子どもの食べるもの、手にするもの、目・耳にするものの大切さを述べています。

子どもと支援者双方が互いの「感じる力・感じとる力」を育みあうかわりを、保育士・作業療法士・助産師・看護師（保健師）・養護教諭そして音楽教育家を交えて考えていきたいと思います。多くの保護者、教育保育関係者、療育関係者のご参加をお待ちしています。

主催：姫路獨協大学 医療保健学部
子育て・発達障害サポート運営委員会

後援：姫路市・姫路市教育委員会

定員：120名

< 第 1 日目 : 3 月 19 日 (土) >

14 : 00 ~ 15 : 00

Y610 講義室 作業療法学科 教授 太田篤志

「発達障碍児の感じる力・感じ取る力を育てる自然の中での保育実践」

さくら・さくらんぼのリズム遊び」を提唱した斎藤公子氏の保育実践の特徴は、豊かな自然のなかで能動的な子どもたちの遊びをできる限り尊重し、人間にとって本当に必要な感じる力・感じ取る力・“生きる力”を育む保育であったと思います。この自然のなかで展開される保育が秘めたパワーを発達障碍児の治療理論である感覚統合理論と関連させながら考えていきたいと思っています。

H401 教室 こども保健学科 講師 森脇裕美子

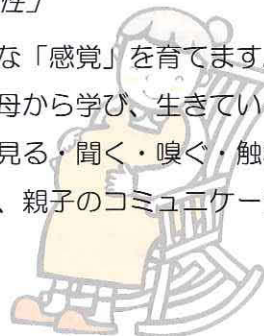
「子どもの健康と学校生活」

学校に入学した子ども達は、1日の多くの時間を学校で生活します。子ども達は、学校の中でも安全に、安心して、心身ともに健康に過ごす権利があります。そのため、学校には、家庭や地域の関係機関と連携・協力しながら、子ども達の健康を守り、発育発達を支援する仕組みがあります。そのような仕組みについて、紹介します。

H403 教室 出張助産所 Be Mom 小島光華・こども保健学科 准教授 森田恵子

「子どもの豊かな感覚体験—胎内から育む親子の応答性」

母胎内の子どもは、自発的な全身運動をとおして多様な「感覚」を育てます。その後子どもは、育ちゆく「感覚」を土台に「遊び」を父母から学び、生きていることの実感と喜びを知覚していきます。今回は、親子間の見る・聞く・嗅ぐ・触れる感覚体験のうち、特に「触れる・触れ合う」体験を軸に、親子のコミュニケーションを皆様と考えていきたいと思っています。

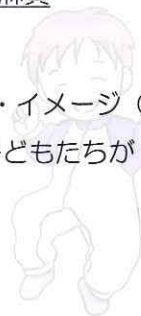


15:15~16:30

H401教室 小児保健学科 准教授 中 磯子・講師 田中麻貴

「音楽の特性を活かした発達支援」

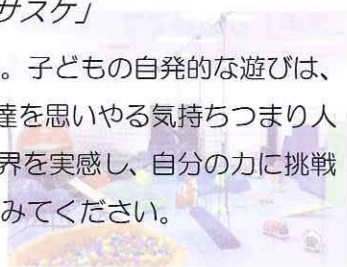
リズム・メロディー・アクセント・フレーズ・楽器（音色）・イメージ（曲想）は音楽の大きな特徴です。このすばらしい特徴を活かして、子どもたちが「思わずできてしまった」と感じる体験をしてみましょう。



プレイルーム 作業療法学科 助手 梅本静香 他

「自らの感覚領域を体験し鍛えてみよう！HDU版サスケ」

今回、わくわくプレイルームの遊びを再現してみました。子どもの自発的な遊びは、運動能力、より楽しいものを作り出す創造力、そして友達を思いやる気持ちつまり人間関係を作る力をも育みます。子どもたちの作りだす世界を実感し、自分の力に挑戦して、子どもと同じ「やった！できた！」感を味わってみてください。

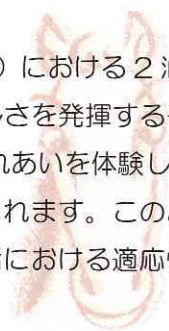


< 2日目：3月20日（日） > 10:00~11:00

Y610講義室 作業療法学科 教授 小西紀一

「自然との触れ合い、馬との触れ合い」

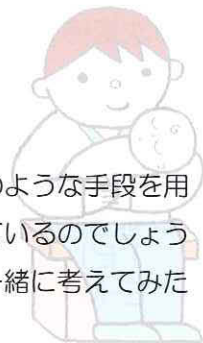
宇治市の野外活動センター（アクトパル宇治）における2泊3日のキャンプ。親と離れて「非日常的」環境で過ごす間に逞しさを発揮する子どもたち。「馬力の会（志方西部乗馬クラブ）」でお馬さんとの触れあいを体験し、最初はおっかなびっくりの子どもたちが、極上の笑顔を披露してくれます。このような変化の背景にある要因を感覚統合の視点から分析し、日常生活における適応性の拡大へとつながる支援策についてご紹介したいと思っています。



H401教室 作業療法学科 教授 村井弘育

「障害を持つ子どもの非言語的コミュニケーション」

生まれつき身体が不自由で、言葉を持たない子どもたちは、どのような手段を用いて自分の外からの情報（感覚）を捉え、私たちに伝えようとしているのでしょうか？ そのような子ども達の世界の捉え方から情報の発信までを一緒に考えてみたいと思います。



<2日目：3月20日（日）>

11：15～12：45 Y610講義室

特別講演：「実践報告：感覚を通しての遊びから保育へ」

高村祥子先生（木の琴会代表）

私たち人間は、様々な「感覚」を与えられて生まれてきます。しかし子どもは、子ども一人の力だけで感覚を用いて知覚できるようになるわけではありません。子どもをとりまく自然や、遊具、玩具、歌や絵本など、それらを子どもたちに手渡し導く「導き手」が必要です。保育所保育の実践報告を混じえながら、幼児の感じる力・感じとる力を育む環境と保育士の働きについてお話ししたいと思います。

高村祥子（たかむらさちこ）先生プロフィール

保育士資格を取得後、昭和60年より、神戸市立の保育所やこども家庭センターに勤務致しました。約20年間保育士として、集団でのこどもたちと接するなかで親子のつながりの大切さを感じました。

そして、神戸市を退職し平成20年4月より、自宅に隣接した一間で、子育て支援スペース「木の琴会」を開設致しました。「出会いを大切に、親子であそび、くつろげる空間を・・・」と願い、地域の子育て支援に取り組んでいます。

－ 参加申し込み方法 －

往復はがきにてお申し込み下さい。

往信面に、参加者氏名・連絡先・交通手段（1. 公共交通機関（バス等）
2. 車利用 3. その他）を明記してください。

返信面には、返信先住所・氏名を明記し、下記、送付先へ郵送して下さい。
2011年2月末を締め切りとしますが、先着順に受け付けの上、定員になり次第締め切ります。

● 送付先：〒670-8524 姫路市上大野7-2-1
姫路獨協大学 地域連携課 のびのびセミナー係

○ お問い合わせ

TEL 079-223-9022（作業療法学科助手室 梅本）

E-MAIL nobinobi2011@gmail.com